

## 一般演題2-4

### 突発性難聴に対する高気圧酸素治療の効果：当院における過去1年間のデータ解析

高澤知規<sup>1)</sup> 折原雅紀<sup>2)</sup> 金田智子<sup>3)</sup>

金本匡史<sup>1)</sup> 齋藤 繁<sup>1, 2)</sup>

- |    |                        |
|----|------------------------|
| 1) | 群馬大学医学部附属病院 集中治療部      |
| 2) | 群馬大学大学院 医学系研究科 麻酔神経科学  |
| 3) | 群馬大学医学部附属病院 MEサプライセンター |

#### 【背景】

突発性難聴は突然発症する原因不明の感音性難聴である。高気圧酸素治療 (HBO: Hyperbaric Oxygen Therapy) はステロイド治療の補助療法として古くから行われているが、その効果について定まった見解はない。そこで我々は、HBOを受けた突発性難聴の患者のデータを解析し、治療効果について検討した。

#### 【方法】

当院で2017年1月から12月31日までに突発性難聴の治療目的でHBOを受けた患者を対象とした。重症度の分類には厚生省特定疾患急性高度難聴調査研究班の基準を用いた。すなわち5周波数 (250Hz, 500Hz, 1000Hz, 2000Hz, 4000Hz) の聴力を平均した初診時純音聴力により、Grade 1 (40dB未満), Grade 2 (40dB以上60dB未満), Grade 3 (60dB以上90dB未満), Grade 4 (90dB以上) に分類した。治療効果の判定にも同研究班の基準を用いた。聴力レベルが20dB以内に戻った場合を「治癒」、聴力が30dB以上改善した場合を「著明改善」、10dBから30dB未満の改善を「回復」、聴力変化が10dB未満の場合を「不変」と定義した。

#### 【結果】

対象期間に26人の患者がHBOを受けた。そのうち7名は、聴力検査が当院で実施されなかったため、除外した。19名 (男性:6名, 女性:13名) の平均年齢は63才、発症からHBO開始までの平均日数は8.5日、HBOの平均施行回数は12回で、すべての患者がステロイド等の薬物治療を併用されていた。重症度の分類は、1が2名, 2が3名, 3が8名, 4が6名であった。治療効果は、治癒が3名, 著明改善が4名, 回復が4名, 不変が8名であった。治癒率は16%, 有効率 (治癒+

著明改善) は37%, 改善率 (治癒+著明改善+回復) は58%であった。HBOによる合併症が生じた患者はいなかった。

#### 【考察】

本研究の対象患者は、Grade3と4を合わせると70%以上を占めており、比較的重症な患者が多かった。過去には、突発性難聴に対するHBOの治療成績について、治癒率60%, 有効率66.7%, 改善率86.7%だったとする報告や1), 有効率が50.1%だったとする報告2)がある。患者背景が異なるので単純な比較はできないが、それらの報告と比べると治療成績が悪かった。突発性難聴の予後不良因子には、高齢者、めまいの合併例、治療開始時期の遅延などが挙げられる1)。本研究の結果は、対象者に重症者や高齢者が多かったこと、治療開始までの日数が長かったことが関係したかもしれない。

#### 参考文献

- 1) 竹内虎之進, 他.: 突発性難聴に対する高気圧酸素療法の有用性に関する研究 - 二施設間前向き比較試験 -. 耳鼻 2016; 62: 1-10.
- 2) 藤岡泰博: 突発性難聴に対する高気圧酸素治療の効果の検討. 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2011; 46: 43-49.